フィールド博物館
別府温泉地球博物館

ジオツアー

地獄ハイキング

温泉マイスターガイド・オリジナル！

府内大友遺跡コース

大友氏館跡庭園

お願いとご注意　歩くときは危険がつきもの

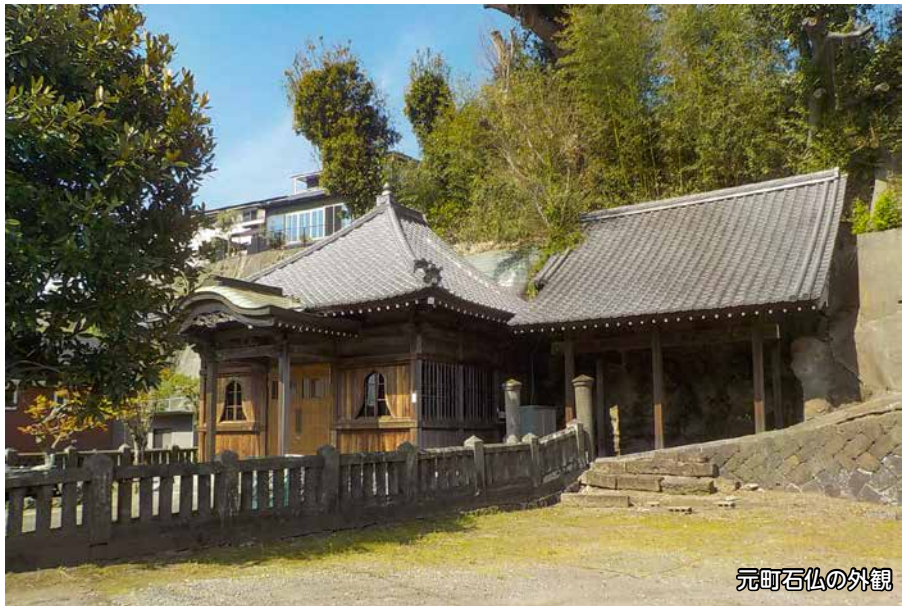
○歩いて実感するのは危険がつきもの。特に地熱地帯は高温の場所です。
足元には十分注意を。沸騰している場所もあります。

○歩くときは足元の準備、水の準備、そして体調と心の準備を。

○別府では、自然であっても持ち主のある場所がほとんどです。
見学するときは、きちんとお願いしてください。

地獄ハイキング

府内大友遺跡コース



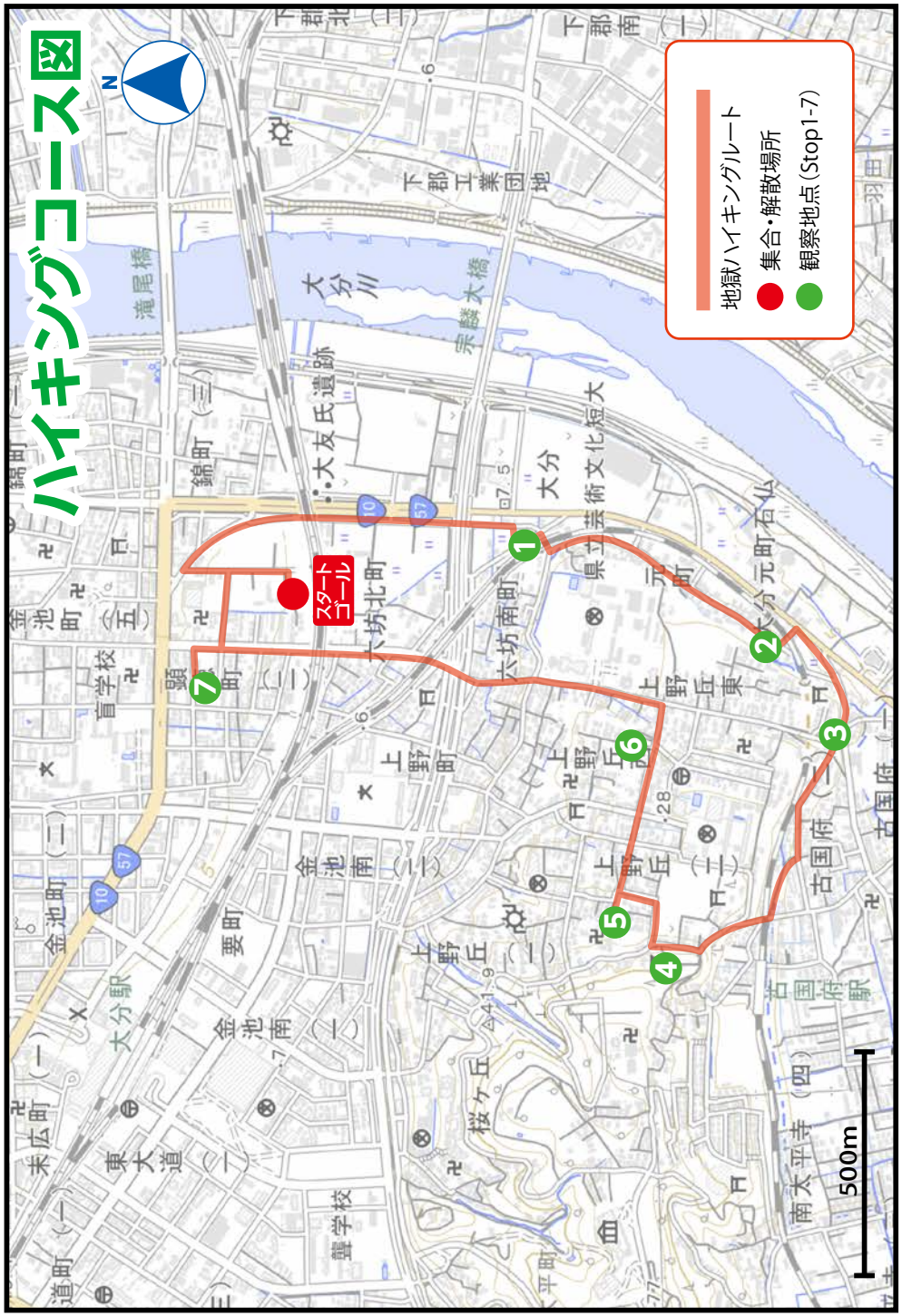
ハイキングの見所と目的

温泉マイスター協会
シニア・マイスター　甲斐 心也

豊後国がもっとも輝いていた時代、大友宗麟時代の大分市街地を巡ります。

スタートは大分市顕徳町の南蛮 BVNGO 交流館。国指定史跡の大友氏館跡や復元された庭園を見学した後、国指定史跡の元町石仏、かつて華やかな祇園祭が執り行われていた弥栄神社、国指定重要文化財の丈六木造大日如来座像のある金剛宝戒寺、大友氏上原館跡、デウス堂跡を巡ります。

温泉シニア・マイスターの甲斐心也がガイドを務めます。



ハイキングコース

スタート　南蛮 BVNGO 交流館
↓
Stop 1　まこもが池
↓
Stop 2　国指定史跡　元町石仏
↓
Stop 3　岩屋寺石仏
↓
Stop 4　弥栄神社
↓
Stop 5　金剛宝戒寺
↓
Stop 6　大友上原（うえのはる）館
↓
Stop 7　デウス堂跡
↓
ゴール　南蛮 BVNGO 交流館

Start 南蛮 BVNGO 交流館

今回のスタート、ゴールは南蛮 BVNGO 交流館です。

国指定史跡の「大友氏館跡」や、1998 年（平成 10 年）の発掘調査により発見され、復元された「大友氏館跡庭園」を見学します。

中世の庭園は、ほとんど当時の姿を留めていない例が多いですが、戦国大名の館跡において、最大級となる東西 67m、南北 30m の池を持った庭園跡であったことが分かっています。

庭園の樹木は、発掘調査の際、池の土を分析して得られた種子や花粉の情報をもとに選定したそうです。

江戸時代の大名庭園は回遊式の庭園が一般的ですが、この時代は館内から眺めるための庭園だったようです。

1 まこもが池

「百合若大臣伝説」に登場する池です。

百合若大臣は、蒙古襲来に対する討伐軍の大将に任命され、神託により持たされた鉄弓をふるい、遠征でみごとに勝利を果たしますが、部下によって孤島に置き去りにされます。しかし鷹の緑丸によって生存が確認され、御台所が宇佐神宮に祈願すると帰郷が叶い、別府太郎･次郎を成敗する、という内容です。

別府太郎は百合若の御台所に言い寄り、その身代わりとして池に沈められたのが万寿姫で、その池が「まこもが池」、姫の菩提を弔うために建てられたのが「蒋山（まこもさん）万寿寺」です。　この近くに前方後円墳の「大臣塚古墳」もあります。

2 国指定史跡　元町石仏

上野丘台地東端の凝灰岩の崖に刻まれた石仏で、岩薬師とも呼ばれてます。

昭和９年（1934）に国指定史跡となり、県南の臼杵石仏と並ぶ大分県を代表する磨崖仏です。

木造瓦葺の覆堂の中、露出した溶結凝灰岩の岩肌に薬師如来坐像を中央に、左に多聞天立像をはさんで、善膩師童子と吉祥天像が左右に、右に不動明王をはさんで左右に矜羯羅、制吒迦の二童子が刻まれています。

大正期から京都大学などにより研究されており、近年では塩類風化が重要な劣化要因として注目されています。

③ 岩屋寺石仏

上野台台地の南東部の凝灰岩の崖に、17 体の磨崖仏が掘り出されています。そもそも岩質が荒く、南面する崖は風雨による浸食が激しく、ほとんどの像が輪郭をとどめていません。

「中央の如来坐像を薬師如来とし、その左右に釈迦如来、阿弥陀如来の 2 組の三尊像を設置し、過去・現在・未来の 3 世信仰を表そうとした仏像配置であったと推測されます。

平安時代後期の作と言われ、当時の優れた仏教美術の技と仏教信仰の厚さを窺うことができます。(大分市観光協会)」

④ 弥栄神社

上野の森に抱かれるようにひっそりと建つ古社です。参道を登ってくると、木々のざわめきの先に、毒々しいほどの赤い山門が見えてきます。元は本物の朱塗りだったのかもしれませんが、今ではペンキで塗装されているようです。

この神社の氏子は上野丘地区ではなく、古国府地区におられます。江戸時代にはたくさんの大きな山車が練り歩く祇園祭が行われ、大変な賑わいだったそうです。

現在も松平一伯公が寄進した四角、六角、八角の三基のみごとな神輿が残されています。

5 金剛宝戒寺

「高野山真言宗の寺で 神亀４年（727）僧行基が聖武天皇の勅命により、荏隈郷に一宇を建立したのが創建であると言われている。 さらに鎌倉時代の徳治２年（1307）大友氏六代真宗が奈良西大寺の幸尊を請じて、中興開山とし寺基を今の上野台に移した。 全盛時には広大な寺領に６０余りの僧房や大伽藍があったと伝えられており、大分の名刹のひとつである。

鎌倉時代の後期、文保２年 (1318) に運慶の系統を引く康俊によって造られた、高さ 303.8cm の九州最大の仏像「木造大日如来坐像」があり国指定重要文化財になっている。」（佐伯建設ＨＰより）

6 大友上原（うえのはる）館

「上原館は、上野丘陵の北部にあった館で、鎌倉時代後期に大友氏泰によって築かれたとする説のほか、建築年代については諸説がある。館跡は東西 130 メートル、南北 156 メートルで、現在は土塁や堀の跡が残っており、往時は高さ約 2 メートル、幅約 8 メートルの土塁を四方に巡らせ、その外側には一部に堀を設けていたと考えられている。

近年の発掘調査により、平地に大規模な館の存在が明らかになるにつれ、その位置づけなどについて再検討が必要となっている。大分市教育委員会では、上原館は当主の生活の場で、顕徳町の館では政務が行われていたとの見方を示している。」（ニッポン城めぐりＨＰより）

7 デウス堂跡

「天文 20 年（1551）、宗麟の招きによって豊後府内を訪れたイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルは宗麟の許可を得てキリスト教の布教活動を始めました。

天文 22 年（1553）には府内教会（デウス堂）が建てられ、毎日ミサとともに少年合唱隊がオルガンやビオラに合わせて聖歌を歌ったり、宗教劇が演じられました。

こうした宗麟の手厚い保護もあり、豊後府内を中心にキリスト教は急速に広がりをみせ、弘治 3 年（1557）には 2,000 人のキリシタンが、天正 8 年（1580）頃には豊後の信者は約 1 万人を数えたといわれています。(現地案内板より)」

Goal 南蛮 BVNGO 交流館

大分市の計画によれば、大友氏館跡は、「大友氏遺跡のシンボル空間として復元整備を行」い、「大名屋敷の壮大さ、あるいは政治・儀式（オモテ）の空間を表現する。このため、外郭・庭園・中心建物を含む東半部について重点的に調査・整備に取り組む。」とあります。

具体的には、「外郭部：東辺部及び正門の復元整備・東半部：中心建物、庭園跡、その他区画塀・正門・施設等」として、大友氏館跡における中心建物の復元整備などを令和 12（2030）年までに完成させる計画です。